

令和 7 年度 政務活動費支出整理簿

会派名 公明党

氏名 高橋 正人

項目	調査研究費		
費目	旅費		
整理番号	月 日	支出額 (円)	支 出 内 容
1	1 / 13	291,623	調査視察 旅費・研修費(沖縄県久米島町) (日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載)
1-1	/		航空機代 三沢⇄久米島 67,561円 那覇市宿泊代 11,900円 久米島町宿泊代 10,800円 バス代7630円 計97,891円
1-2	/		航空機代 三沢⇄久米島 67,561円 那覇市宿泊代 11,900円 久米島町宿泊代 10,800円 バス代7630円 計97,891円
1-3	/		航空機代 三沢⇄久米島 67,561円 那覇市宿泊代 10,950円 久米島町宿泊代 9,700円 バス代7630円 計95,841円
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
小計		291,623	備 考
合計		291,623	

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

令和8年1月9日

会派名 公明党
代表者名 中村益則様

氏名 中村益則
高橋正人
土嶺直樹



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 中村益則 議員
高橋正人 議員
土嶺直樹 議員
- 2 期間 令和8年1月13日(火)～令和8年1月15日(木)
- 3 場所 沖縄県久米島町
- 4 目的及び内容
 - ・久米島モデルについて
 - ・海洋深層水を活用した取組について
- 5 支出可能額(上限額) 309,573円
【内訳は、旅費額計算書(第4号様式)に記載のとおり】

JAMSTEC 議連・エネルギー推進連盟 視察行程

基本行程 (八戸市)

・日程: 令和8年1月13日(火) ~ 15日(木)

・場所: 沖縄県久米島

月日	行程	宿泊地
1月13日 (火)	<p>8:05発 本八戸駅前 → (連絡バス) → 三沢空港 → (JAL152) → 11:25着/14:30発 羽田空港 →</p> <p>17:25着/17:55発 那覇空港 → (移動) → ホテル</p>	那覇市泊
1月14日 (水)	<p>7:45発 ホテル → (移動) → 那覇空港 → (RAC871) → 8:15着/8:30発 久米島空港 → (借上バス) →</p> <p>9:00着/10:10発 久米島町役場 → (借上バス) → 海洋深層水研究所 → (徒歩) → 11:30着/12:15発 〇ート・F・沖繩 → (移動) (町長表敬等) (現地視察)</p> <p>12:20着/13:20発 久米島町役場 → (借上バス) → ポイントビュール → (借上バス) → 14:35着/14:50発 ジーオー・アーム → (昼食) (現地視察・座学) (現地視察)</p> <p>14:55着/15:20発 久米島海洋深層水開発 → (借上バス) → ホテル (現地視察)</p>	久米島町泊
1月15日 (木)	<p>8:45発 ホテル → (借上バス) → 久米島空港 → (RAC872) → 9:20着/11:25発 那覇空港 → (JAL904) → 13:35着/14:50発 羽田空港 →</p> <p>16:10着/17:15発 三沢空港 → (連絡バス) → 18:05着 本八戸駅前 →</p>	

ご旅行代金明細書

御中

令和7年12月18日

北日本トラベル株式会社

店長 大久保 三郎
青森県八戸市廿三

電話 0178-22-5151

担当

登録番号 T1420001005756

ご依頼賜りました件につきまして、下記の通り請求させていただきます。
ご不明な点がございましたら担当者までお問い合わせ頂きます様お願い申し上げます。

参加人員 大人 15名 計 15名
ご旅行期間 令和8年1月12日(月)～1月15日(木)
ご旅行方面 沖縄県久米島
行程 ご依頼を頂いた別紙の通りとなります。

総旅行代金 1,020,820円

明細内訳

項目	人員		台数 人数	ご利用 運賃・料金	小計	区間・備考
航空機代	1	75,360			75,360	坂本議員 1/12出発
	1	66,780			66,780	日當議員
	9	67,561			608,049	寺地議員、下川原議員、豊田議員 土嶺議員、高橋議員、五戸議員 小屋敷議員、立花議員、中村議員
	2	69,090			138,180	石橋議員、三浦議員(復路便912便/159便)
	1	55,760			55,760	間議員 羽田～久米島(往復)
	1	76,691			76,691	壬生議員(67,561円+クラスJ9,130円)
明細金額小計					1,020,820	
取消料						
現地支払代金				△		
明細金額合計					1,020,820	消費税10% 92,801円

特記事項 基本行程 1/13 JAL152/917、1/1 4RAC871、1/15 RAC872/JAL904/157 三沢～羽田～久米島(往復)

〒903-0122 沖縄県中頭郡西原町小橋川90-1

有限会社タイトウ

TEL:098-970-6083 FAX:098-946-5006

見積書

受付者

印

管理番号 14858-1

車 輛	大型:1台		
乗 車 日	2026年01月14日 水曜日~2026年01月14日 水曜日 0泊1日		
団 体 名	JAMSTEC研究成果活用促進八戸市議会議員連盟		
エージェン	TEL 担当者	お客様 JAMSTEC研究成果活用促進八戸市議会 031-0075 青森県八戸市内丸1丁目1番1号 TEL 0178-43-9161 担当者 槻ノ木沢 様	
行 先			
配 車	配車時刻 08:05 配車地 久米島空港		
出 発	出発時刻 08:30 出発接続 RAC871(8:15)		
終 着	終着予定 15:30 終着地 久米アイランド 終着接続		
運 賃	84,800 円	概算 有料 料金	大 人 23 名
消 費 税	8,480 円		人 員 子 供 0 名
税 込	93,280 円		添乗員 0 名
月 日	行 程		宿泊・手配・その他
01/14 (水)	出勤時間7:05 待機/休1:10 久米島営業所====久米島空港====久米島町役場 7:35 8:05/8:30 9:00/10:10		
	2:10 沖縄県海洋深層水研究所====久米島営業所====くめじまーるカフェ 10:25/10:35 10:45/12:55 13:10/13:20		海洋深層水研究所とロート・F 沖縄とくめじまーるカフェは は隣ですので、徒歩移動
	1:00 15 25 ====ポイントピュール====ジーオーファーム====久米島海洋深層水開発水産事業部 13:30/14:30 14:35/14:50 14:55/15:20		
	30 ====久米アイランド====久米島営業所 15:30/15:40 15:50		
手配・積込品	消毒液	備 考	【大型/ワンマン】 責任者 [REDACTED] ステッカー《JAMSTEC研究成果活用促進八戸市 議会議員連盟》

【帳票 R-022】

2026年1月9日

〒903-0122 沖縄県中頭郡西原町小橋川90-1

有限会社ダイウ

TEL:098-970-6083 FAX:098-946-5006

見積書

受付者

印

管理番号 14858-2

車 輛	大型:1台		
乗 車 日	2026年01月15日 木曜日~2026年01月15日 木曜日 0泊1日		
団 体 名	JAMSTEC研究成果活用促進八戸市議会議員連盟		
エージェント	TEL 担当者	お客様	JAMSTEC研究成果活用促進八戸市議会 031-0075 青森県八戸市内丸1丁目1番1号 TEL 0178-43-9161 担当者 槻ノ木沢 様
行 先			
配 車	配車時刻 07:05 配車地 久米島空港		
出 発	出発時刻 07:15 出発接続		
終 着	終着予定 07:45 終着地 久米アイランド 終着接続 RAC871(8:15)		
運 賃	40,100 円	概算 有料 料金	大 人 23 名
消 費 税	4,010 円		子 供 0 名
税 込	44,110 円		添乗員 0 名
月 日	行 程		宿泊・手配・その他
01/15 (木)	出勤時間6:25 久米島営業所====久米アイランド(久米島)====久米島空港====久米島営業所 6:55 7:05/7:15 7:45/7:55 8:25		
手配・積込品	消毒液	備 考	【大型/ワンマン】 責任者《[REDACTED]》 ステッカー《JAMSTEC研究成果活用促進八戸市 議会議員連盟》

【帳票 R-022】

2026年1月9日

令和8年4月1日

会派名 公明党
代表者名 中村益則様

氏名 中村益則
高橋正人
土嶺直樹



調査視察等報告書

令和8年1月9日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1 旅行者 | 中村益則 議員
高橋正人 議員
土嶺直樹 議員 |
| 2 期間 | 令和8年1月13日（火）～令和8年1月15日（木） |
| 3 場所 | 沖縄県久米島町 |
| 4 行程 | 別紙のとおり |
| 5 支出額 | 291,623円 |
| 6 概要 | 別紙のとおり |

JAMSTEC 議連・エネルギー推進連盟 視察行程

基本行程 (八戸市)

・日程: 令和8年1月13日(火) ~ 15日(木)

・場所: 沖縄県久米島

月日	行程	宿泊地
1月13日 (火)	<p>8:05発 本八戸駅前 → (連絡バス) → 三沢空港 → (JAL152) → 11:25着/14:30発 → 羽田空港 →</p> <p>17:25着/17:55発 (JAL917) → 那覇空港 → (移動) → ホテル</p>	那覇市泊
1月14日 (水)	<p>7:45発 ホテル → (移動) → 那覇空港 → (RAC871) → 8:15着/8:30発 → 久米島空港 → (借上バス) →</p> <p>9:00着/10:10発 久米島町役場 → (借上バス) → 海洋深層水研究所 → (徒歩) → 11:30着/12:15発 → O-T-F・沖繩 → (移動) (町長表敬等) (現地視察)</p> <p>12:20着/13:20発 → くめまるカワ (昼食) → (借上バス) → ポイントピュール → (借上バス) → 14:35着/14:50発 → ジョーオー・アーム → (現地視察・座学) (現地視察)</p> <p>14:55着/15:20発 (借上バス) → 久米島海洋深層水開発 → (借上バス) → ホテル (現地視察)</p>	久米島町泊
1月15日 (木)	<p>8:45発 ホテル → (借上バス) → 久米島空港 → (RAC872) → 9:20着/11:25発 → 那覇空港 → (JAL904) → 13:35着/14:50発 → 羽田空港 →</p> <p>16:10着/17:15発 → 三沢空港 → (連絡バス) → 18:05着 → 本八戸駅前</p>	

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項目	調査研究費	費目	旅費	整理番号	1-1-2
領収書等貼付欄					

領 収 証

No. 124913

2026年4月1日

中村 益則 様

金額	¥ 90261
----	---------

但し 1/13~15 沖縄県那覇市 米島町 航空機借代

10%対象(税込) 90261円 0%対象

内 消費税 8205円 上記の金額正に領収致しました。



現金	✓
小切手	
振込	
クレジット	



〒031-0041 青森県八戸市二十三日町4-1 NDビル1F
TEL (0178) 22-5151代



領 収 証

No. 124781

2026年1月23日

高橋 正人 様

金額	¥ 90261
----	---------

但し 1/12~15 米島沖 航空機借代

10%対象(税込) 90261円 0%対象

内 消費税 8205円 上記の金額正に領収致しました。



現金	✓
小切手	
振込	
クレジット	



登録番号 T1420001005756
〒031-0041 青森県八戸市二十三日町4-1 NDビル1F
TEL (0178) 22-5151代



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	調査研究費	費 目	旅費	整理番号	1-3
領 収 書 等 貼 付 欄					

領 収 証

No.124779

2026年1月23日

土 嶺 直 樹 様

金 額	¥ 88211
-----	---------

但し 1/13~15 久米島・沖繩 観光後泊代として
 10%対象(税込) 88211円 0%対象
 内 消費税 8019円 上記の金額正に領収致しました。



現金	✓
小切手	
振込	
クレジット	

北日本トラベル 株式会社
 登録番号 T1420001005756
 〒031-0041 青森県八戸市二十三日町4-1 NDビル1F
 TEL (0178) 22-5151(代)



領 収 証 八 戸 市 議 会 公 明 党 様

No. _____

金 額	¥ 22890-
-----	----------

内 訳	
現金	
小切手	/
手形	/
消費税額等(%)	
消費税額等(-%)	

但し R8年1月14~15日 久米島視察に係るバス代として
 2026年2月27日 上記正に領収いたしました (3人分)

沖 縄 県 豊 見 城 市 字 我 那 覇 656 番 地
 有 限 会 社 ダ イ ト ウ

収 入 印 紙

登 録 番 号

登 録 番 号 T3360002010099

GR268324

22,890円 ÷ 3人 = 7,630
 (1人あたり)

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

ご旅行代金明細書

御中

令和7年12月18日

北日本トラベル株式会社

店長 大久保 隆夫
青森県八戸市廿三

電話 0178-22-5151

担当

登録番号 T1420001005756

ご依頼賜りました件につきまして、下記の通り請求させていただきます。
ご不明な点がございましたら担当者までお問い合わせ頂きます様お願い申し上げます。

参加人員 大人 15名 計 15名
ご旅行期間 令和8年1月12日(月)～1月15日(木)
ご旅行方面 沖縄県久米島
行程 ご依頼を頂いた別紙の通りとなります。

総旅行代金 1,020,820円

明細内訳

項目	人員		台数 人数	ご利用 運賃・料金	小計	区間・備考
航空機代	1	75,360			75,360	坂本議員 1/12出発
	1	66,780			66,780	日當議員
	9	67,561			608,049	寺地議員、下川原議員、豊田議員 土嶺議員、高橋議員、五戸議員 小屋敷議員、立花議員、中村議員
	2	69,090			138,180	石橋議員、三浦議員(復路便912便/159便)
	1	55,760			55,760	間議員 羽田～久米島(往復)
	1	76,691			76,691	壬生議員(67,561円+クラスJ9,130円)
明細金額小計					1,020,820	
取消料						
現地支払代金				△		
明細金額合計					1,020,820	消費税10% 92,801円

特記事項 基本行程 1/13 JAL152/917、1/1 4RAC871、1/15 RAC872/JAL904/157 三沢～羽田～久米島(往復)

ご旅行代金明細書

国立研究開発法人海洋研究開発機構研究成果
活用八戸市議会議員連盟・
八戸圏域連携中枢都市圏形成促進議員連盟

御中

総旅行代金

372,100円

明細内訳

項目	人員		台数 人数	ご利用 運賃・料金	小計	区間・備考
宿泊代						
ダイワロイネット ホテル沖縄県庁前	1	11,900		朝食付き	11,900	1/12坂本議員
	2	10,950		朝食なし	21,900	1/13土嶺議員、壬生議員
	5	11,900		朝食付き	59,500	1/13長谷川議員、高橋議員、中村議員、 小屋敷議員、立花議員
	2	13,000		朝食付き	26,000	1/13下川原議員、坂本議員 (ツインルーム)
コンフォートホテル 那覇県庁前	7	11,900		朝食付き	83,300	1/13間議員、三浦議員、石橋議員、 日當議員、豊田議員、五戸議員、 寺地議員
ウォーターマーク ホテル沖縄 久米アイランド	13	10,800		朝食付き	140,400	1/14長谷川議員、高橋議員、間議員、 三浦議員、石橋議員、中村議員、 日當議員、下川原議員、豊田議員、 立花議員、坂本議員、五戸議員、 寺地議員
	3	9,700		朝食なし	29,100	1/14土嶺議員、小屋敷議員、壬生議員
明細金額小計					372,100	
取消料						
現地支払代金				△		
明細金額合計					372,100	消費税10% 33,827円

視察実施報告書

下記の通り調査視察を実施したことから、以下のとおり報告いたします。

記

- 1 視察日時 令和8年1月13日（火）～令和8年1月15日（木）
- 2 視察場所 沖縄県久米島町役場、海洋深層水研究所、
ロート・F・沖縄（藻類農園 FARMO）、
ポイントピュール、ジーオー・ファーム、
久米島海洋深層水開発
- 3 視察事項及び
調査結果概要 別紙の通り
- 4 視察議員
 - ・中村 益則
 - ・高橋 正人
 - ・土嶺 直樹

以上 計3名

調査視察 報告書

1 視察地：沖縄県久米島町

- 1-1 視察日時
- 1-2 対応者
- 1-3 視察目的

2 表敬訪問および座学

- 2-1 表敬訪問
- 2-2 座学「久米島モデル」の実現に向けて

3 関連企業現地視察

- 3-1 海洋深層水研究所
- 3-2 ロート・F・沖縄
- 3-3 ポイントピュール
- 3-4 ジーオー・ファーム
- 3-5 久米島海洋深層水開発

4 所感

1 視察地：沖縄県久米島町

1-1 視察日時

令和8年1月14日（水） 9：00～10：10 町役場・座学
令和8年1月14日（水） 10：25～15：20 現地視察

1-2 対応者

- ・久米島町長 桃原 秀雄 氏
- ・久米島副町長 中村 幸雄 氏
- ・久米島町 プロジェクト推進課長 濱本 尚哉 氏
- ・久米島町 主査 江州 誠一郎 氏
- ・海洋深層水研究所 所長 中村 博幸 氏
- ・ロート製薬株式会社 アグリ・テック開発部 東村 俊輔 氏
- ・株式会社ポイントピュール 営業本部 営業サポート 次長 山川 重人 氏
- ・株式会社ジーオー・ファーム 取締役副社長 鷲足 恭子 氏
- ・久米島海洋深層水開発株式会社 場長 仲道 司 氏

1-3 視察目的

沖縄県久米島町では、海洋深層水の多分野活用と各事業を相互に循環させる「久米島モデル」を実践している。同モデルは、産業創出・雇用効果、官民連携による運営体制等の面で示唆に富む取組である。

本視察では、同モデルの取組を学ぶことに加え、同町が掲げる「ゼロカーボンシティ宣言」および「2040年までに島内消費エネルギー100%を再生可能エネルギーで自給する」方針を支えるエネルギー施策との連動状況、ならびに小中学校向けエネルギー教室等の教育展開について把握する。

久米島町における各種取組からの学びを通じて、当市における地域資源活用、産業振興、脱炭素政策及び教育施策に応用可能な要素を抽出・整理することを目的に、本視察を実施する。

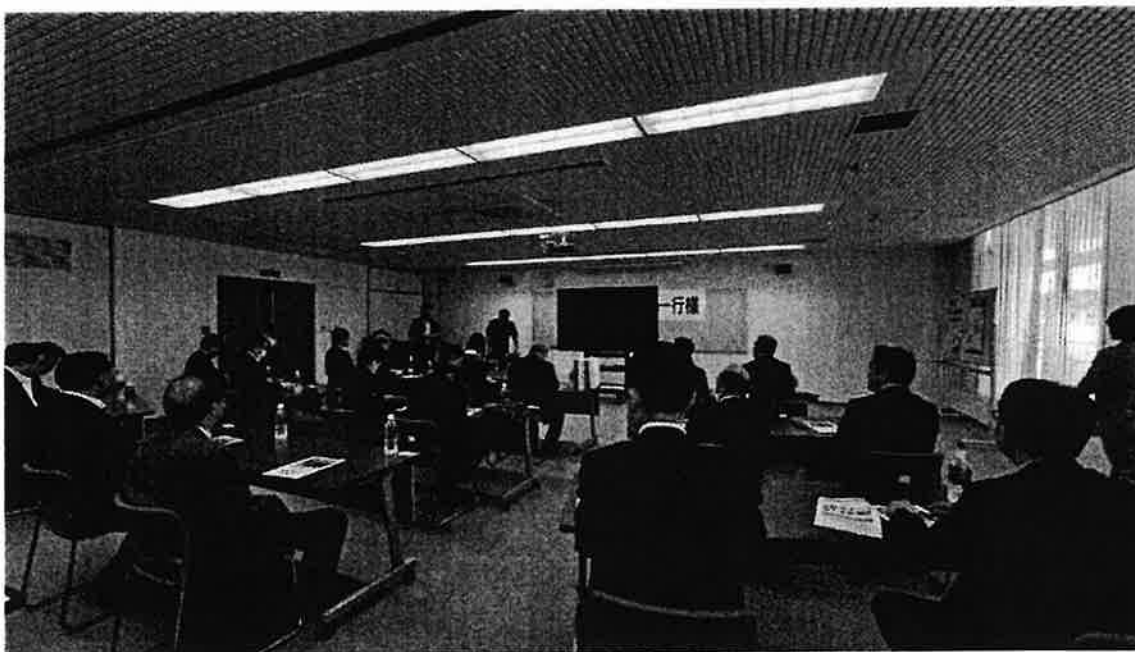
2 表敬訪問および座学

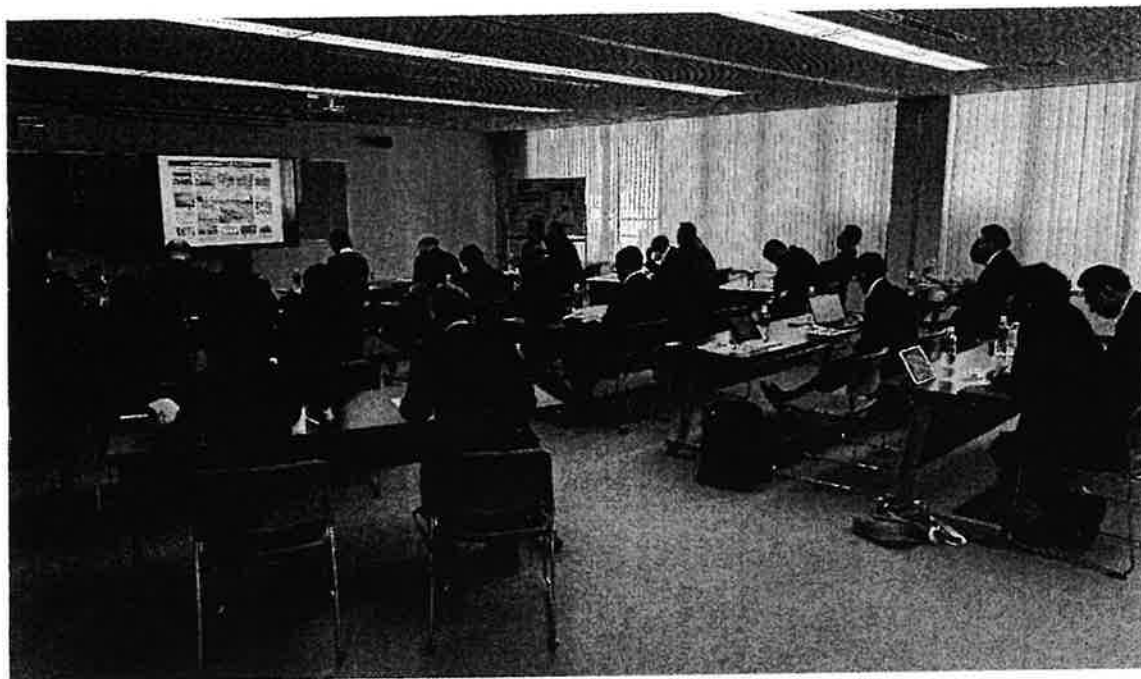
2-1 表敬訪問 9:00～9:20

○議長および各会派の代表者が、町長室において表敬訪問を行った。



2-2 座学「久米島モデル」の実現に向けて 9:20～10:20





【久米島町の位置・概況】

久米島町は那覇市の西、約 100km の東シナ海に位置する。人口は 2025 年 11 月末現在で 6967 人、世帯数は 3911 となっている。

【久米島町の主要産業】

主に農業、水産業、観光業から成り立っている。農業は、さとうきび、にがうり、紅芋、花卉（大菊）、肉用牛で、総額 25.8 億円である。水産業は、車エビ、海ぶどう、もずく、魚介類で、総額 12.4 億円である。観光業は、令和 6 年度で 88,527 人を記録している。

【海洋深層水の定義と特徴】

海洋深層水とは、太陽の光が届かない海底 200m 以深の海水のことである。①低温性、②清浄性、③富栄養性、の 3 つの点で、資源活用の視点から注目されている。

【海洋深層水に関する取組の経緯】

沖縄県による調査研究は 1986 年から始まった。その後、2000 年に「沖縄県海洋深層水研究所」が開設され、2012 年には「沖縄県海洋温度差発電実証設備」が竣工・稼働を開始し、2018 年まで連続運転を実施した。

2021 年には「久米島海洋深層水活用・漁業用施設整備全体計画策定業務」を実施、その後 2022 年からは環境省事業として、官民連携のカーボンニュートラル事業である海洋温度差発電の実証を続けている。

【OTEC（海洋温度差発電実証設備）】

表層水と深層水の温度差（20℃前後）を利用し、タービンを回して発電するシステム。安定した発電量、海水の二次利用などが可能であり、久米島町では、発電に利用した後の海洋深層水を、水産養殖や農業、工業や空調等への二次利用化を進めている。

【久米島町における深層水産業利用の現状】

関連企業 20 社による深層水関連製品の生産額は、年間約 25 億円。新規雇用者は 140 名（関連企業全体で 300 名）であり、久米島町における一大産業となっている。

【加速する深層水需要と主要プロジェクト】

「深層水温度差発電」に始まり、「サンゴの育苗」、「あたらぬ牡蠣の陸上養殖」、「海ブドウ養殖」、「微細藻類培養」、「車海老養殖」、ヘルスケア製品製造、化粧品製造、温浴施設、野菜生産などが挙げられる。取水量が律速していることから、取水管の大規模化が急務である。

【取水量 10 倍での海洋深層水関連開発地図（案）】

図 1 参照。

【地方創生「久米島モデル」循環図】

「エネルギー・水・食糧」の自給自足で、持続可能な島嶼コミュニティを創る。

図 2 参照。

【久米島町ゼロカーボンシティ宣言】

令和 3 年 1 月 22 日に宣言。2050 年までに二酸化炭素排出実質ゼロへ。沖縄県内では初の宣言となった。

【久米島町エネルギービジョン 2020】

久米島町における各再エネ技術の導入可能性についての評価。

図 3 参照。

【久米島町エネルギービジョン目標】

2040 年までに、島内で消費されるエネルギーの 100%を再生可能エネルギーによって自給する。太陽光発電や海洋温度差発電によるエネルギー確保から優先導入する。ロードマップについては図 4 参照。

【実施中施策について】

太陽光発電の普及支援を行っている。全体では2025年目標の3,450KWに対し、2024年末実績で5,783KWと、大きく上回る実績を残している。その他にも、電気自動車や風力発電や波力発電などの実証フィールド提供も行っている。

海洋温度差発電施設（OTEC）の規模拡大に向け、現状の13,000tから180,000tへの取水量増量を図っている。

【地域社会・教育への機会提供】

関係者による出前授業や、エネルギー壁新聞コンテストにおける全国表彰、海洋温度差発電による他県・国外との交流事業など、活動は多岐にわたっている。

【持続可能な島へ 海洋深層水利用の有効性】

- ・海からの再生可能エネルギー（海洋温度差発電）で一次産業を振興。
- ・エネルギー効率の高い冷熱利用による省エネ化。
- ・地産地消によるフードマイレージの削減によるGHG排出削減。
- ・藻類の増殖と利用による直接的な炭素固定。
- ・育てる漁業推進による水産資源保全。
- ・熱帯・亜熱帯地域・島嶼地域の地産地消と食糧の安定確保。
- ・気候変動等により懸念が増した食糧・プロテインクライシスに対するリスクヘッジ。
- ・熱帯・亜熱帯の島嶼の経済的自立と持続可能性の両立。
- ・次世代につなぐ地域教育・環境教育への活用。

【世界から人を呼ぶ】

2013年6月の海洋温度差発電運転開始以来、国内外から約14,000人、80カ国からの見学・視察を受け入れている。

【世界の地域モデルへ】

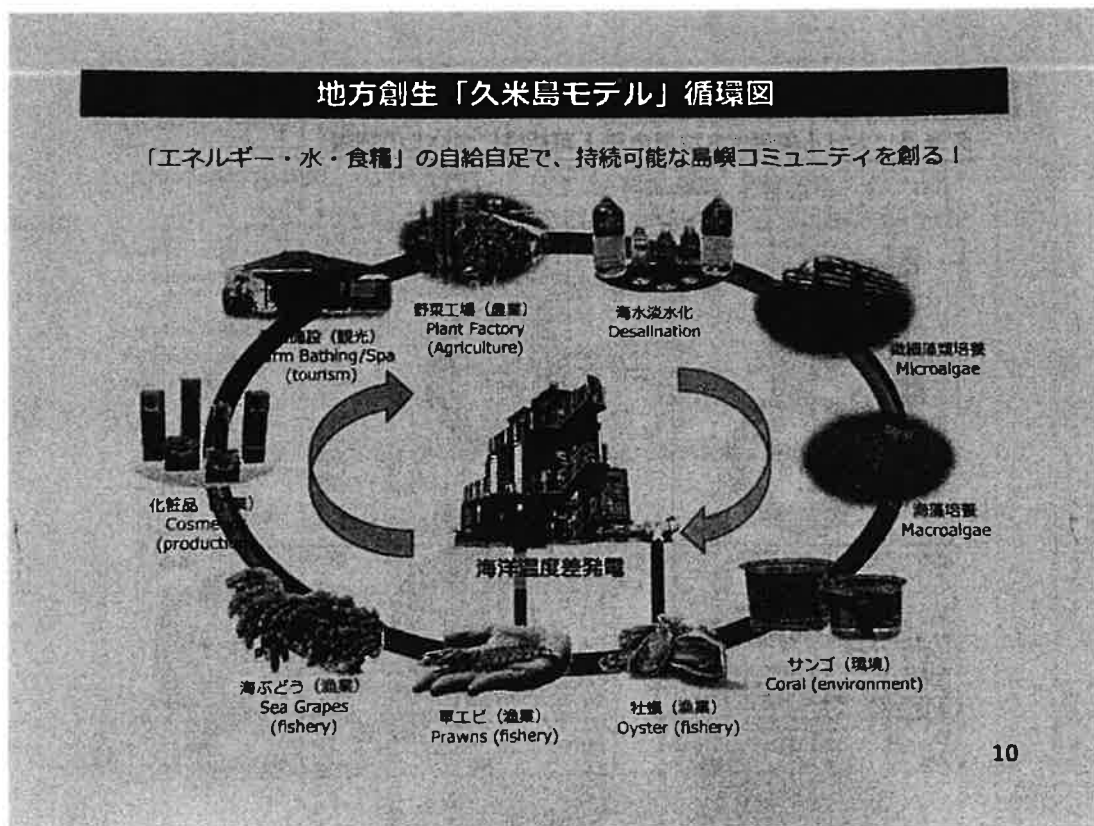
海洋の再生可能資源・エネルギーを利活用した「エネルギー・水・食糧」の自給自足で、持続可能な島嶼コミュニティを創ることが目標。

図5・6参照

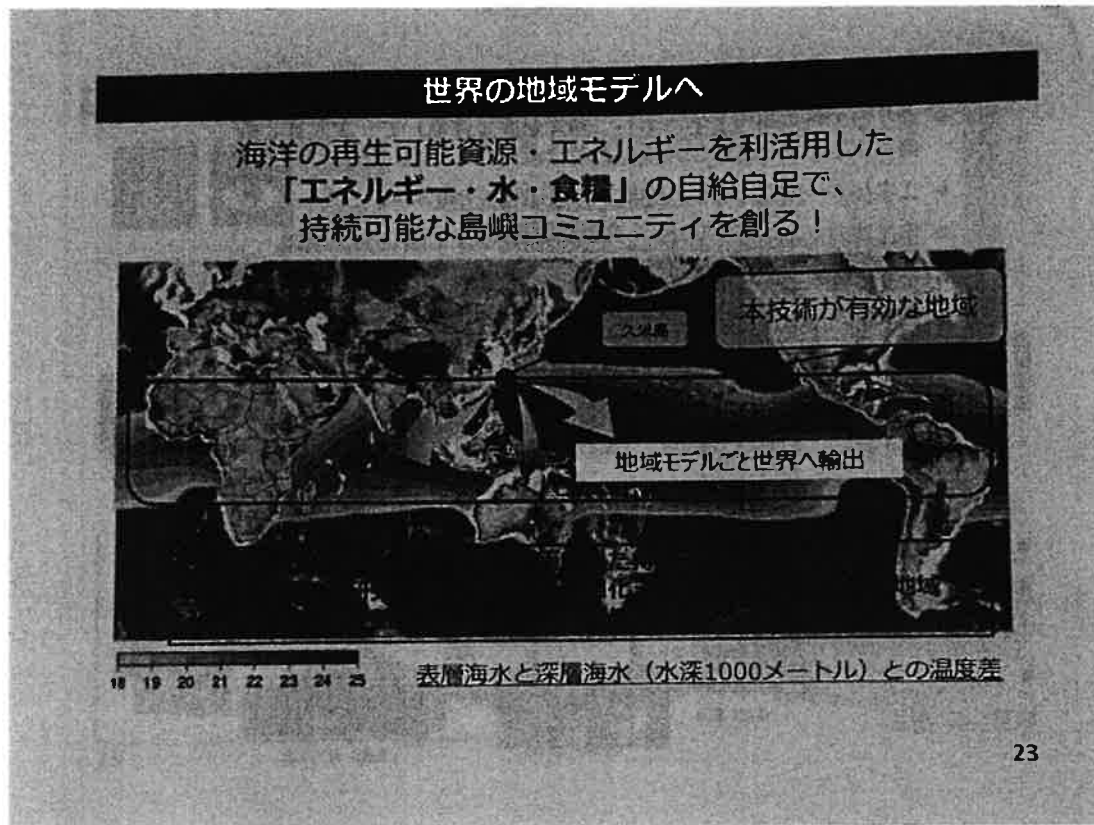
※図1



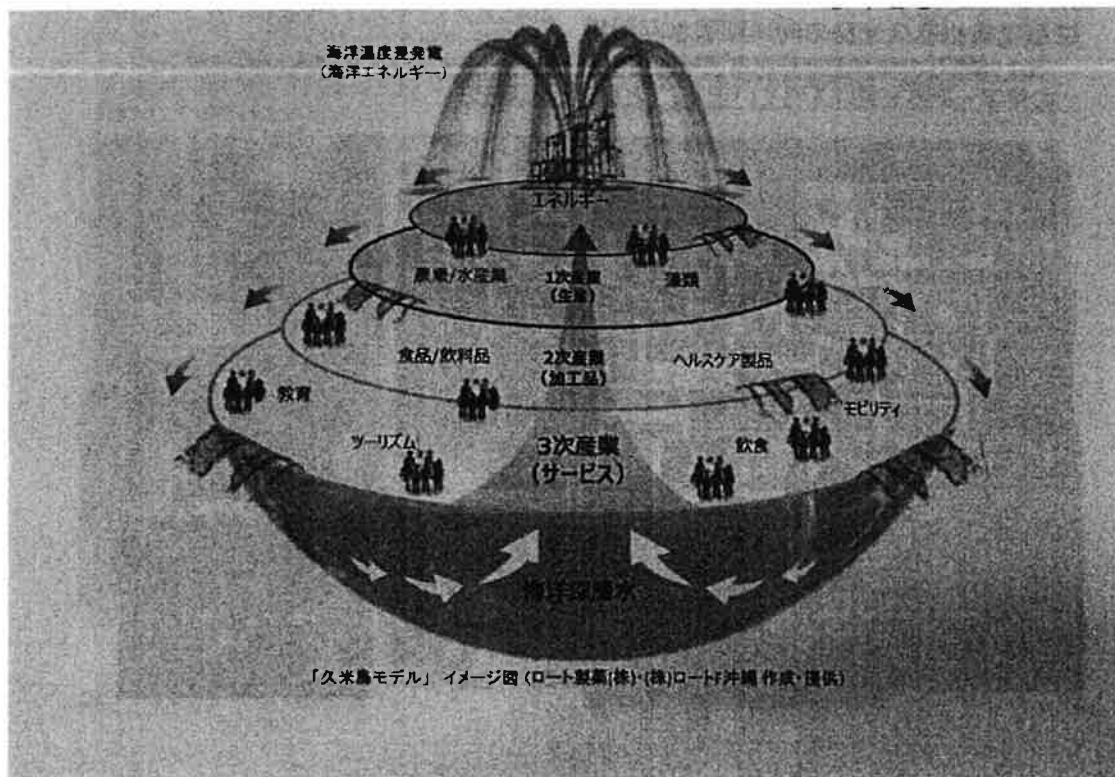
※図2



※図5



※図6

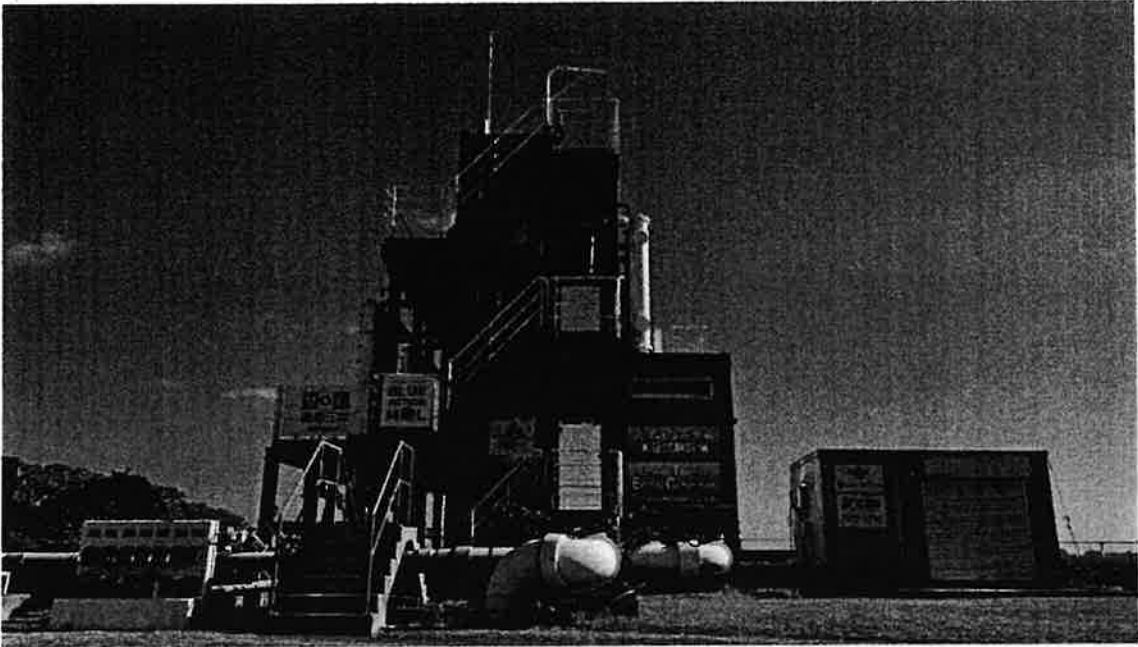


3 関連企業現地視察

3-1 海洋深層水研究所 10:25~11:25

○海洋深層水を活用したウイルスフリーのクルマエビ、海ぶどう養殖などの取組内容について説明を受け、研究所施設の現地視察を行った。

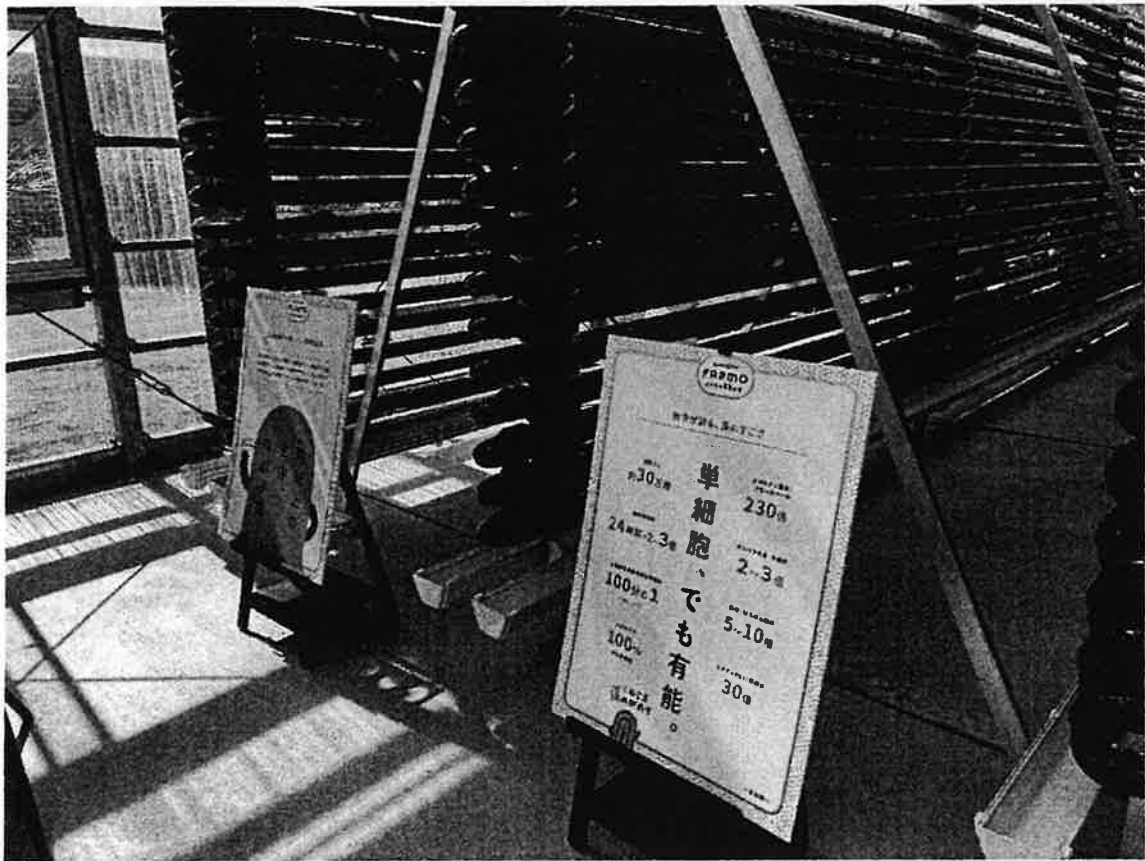




3-2 ロート・F・沖縄 11:30~12:15

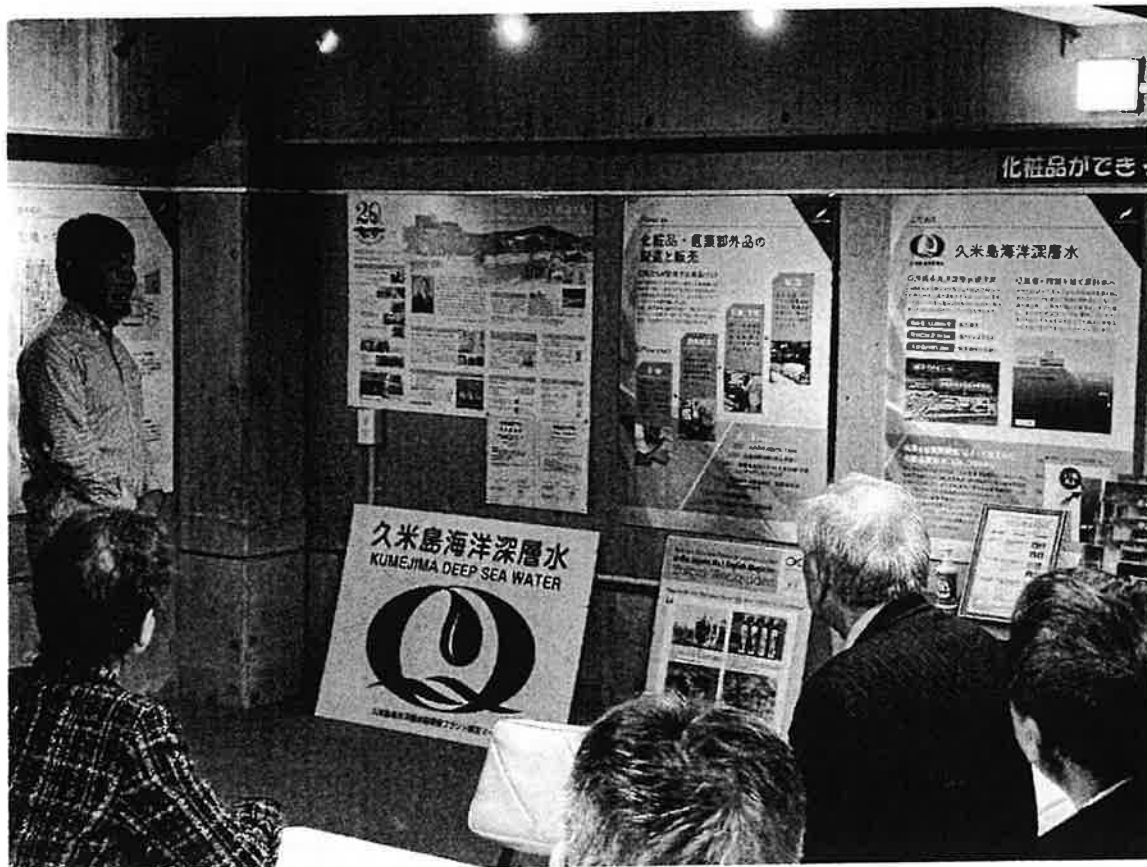
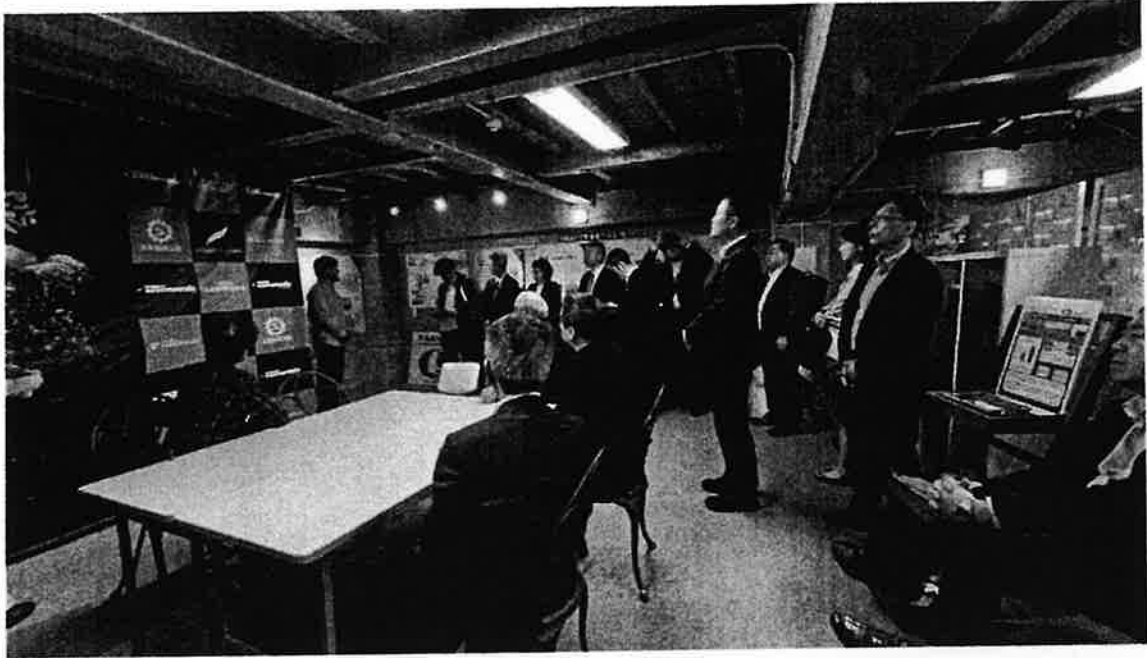
○海洋深層水をエネルギー等に活用した日本初の藻類農園の取組内容について説明を受け、藻類農園の現地視察を行った。





3-3 ポイントピュール 13:30~14:00

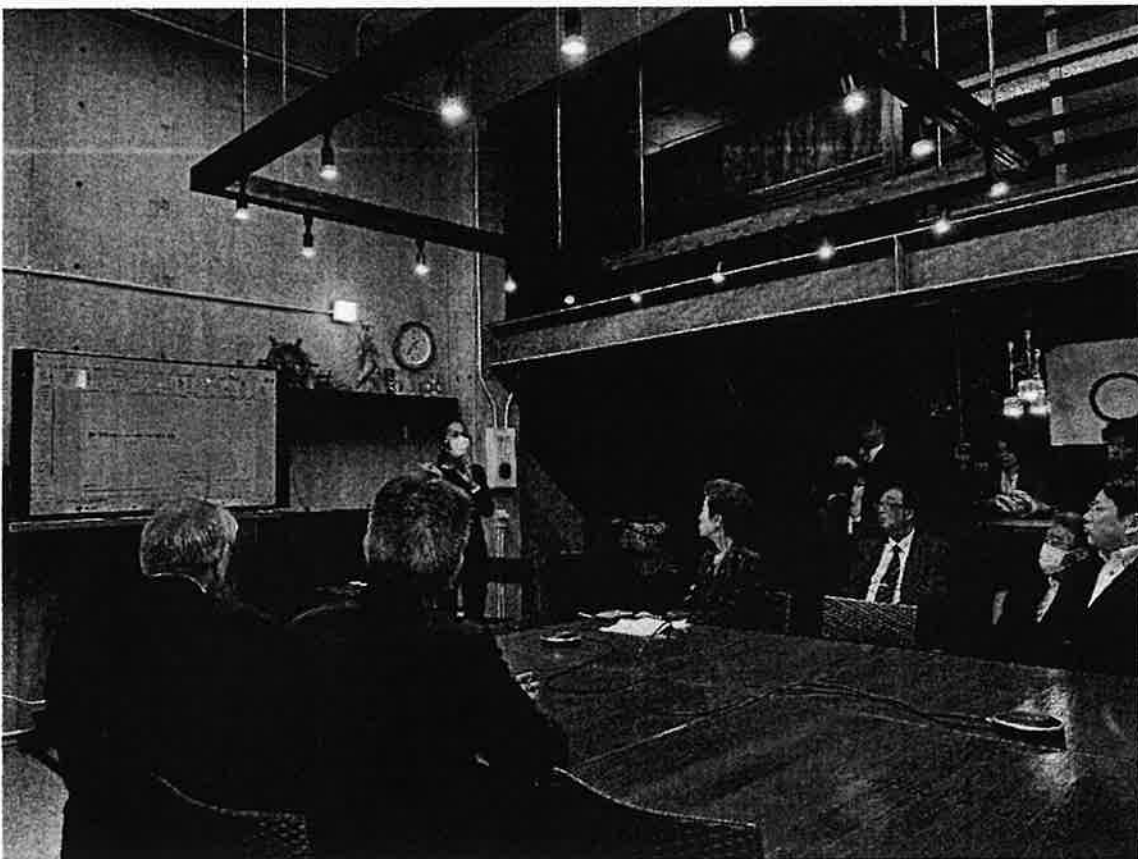
○海洋深層水がもつ富栄養素等を原材料とする化粧品製造に関する取組内容の説明を受けた。

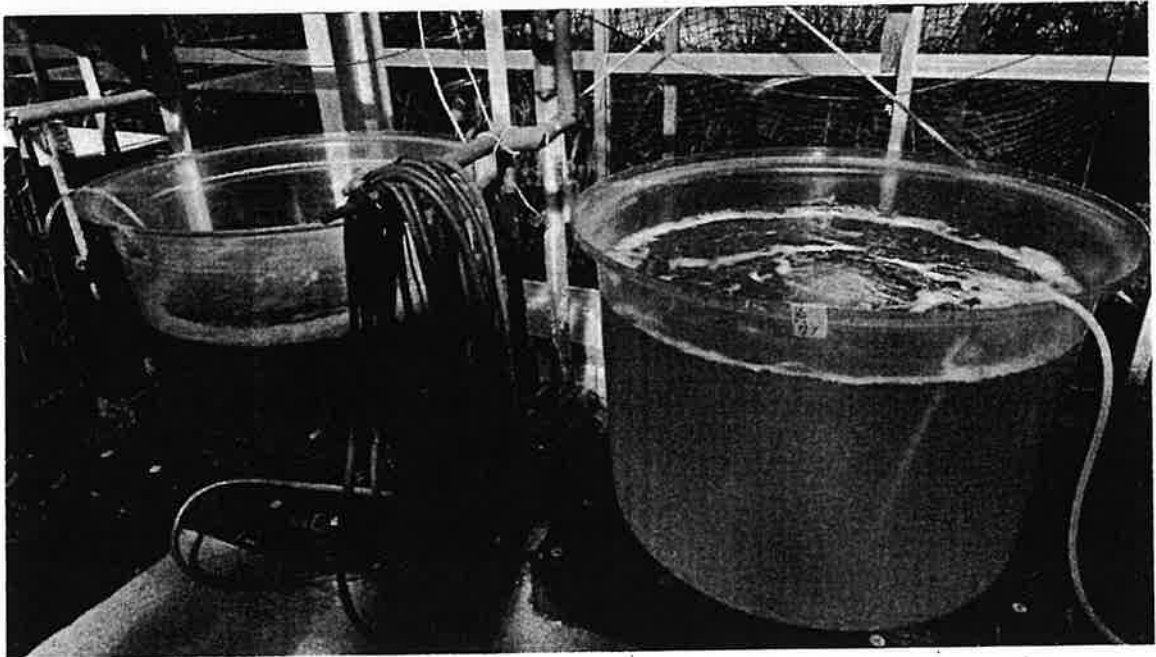


3-4 ジーオー・ファーム 14:00~14:20 (座学)

14:35~14:50 (現地視察)

○世界初の海洋深層水を活用したあたらない牡蠣の完全陸上養殖等の取組内容について説明をうけ、養殖施設の現地視察を行った。

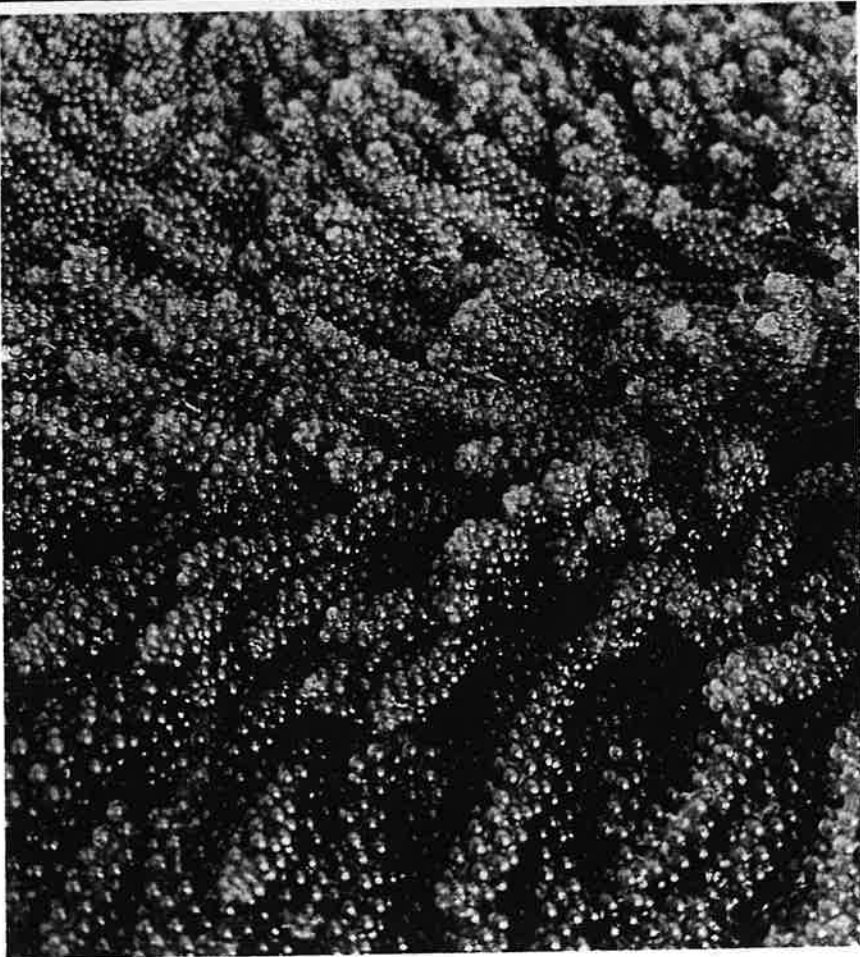




3-5 久米島海洋深層水開発 14:55~15:20

○海洋深層水を活用した日本一の海ぶどうの陸上養殖などの取組内容について説明を受けるとともに、養殖施設の現地視察を行った。





4 所感

今回の視察を通じて、地域資源を科学的知見に基づいて高付加価値化し、産業として展開していくことの重要性を強く認識した。とりわけ、海洋研究開発機構の取組に見られるように、海洋資源の可能性を研究に留めるのではなく、社会実装へと結びつけている点は極めて示唆に富むものであった。

久米島における海洋深層水の活用は、研究機関と民間企業、地域が一体となり、食品や化粧品、農業など多様な分野へと展開されており、地域内で産業が循環している点が特徴的である。特に、ロート製薬による藻類事業など、外部企業の技術や資本を取り込みながら新たな価値を創出している取組は、持続可能な地域経済の形成に大きく寄与しているものと感じた。

これらの取組は、単独の事業としてではなく、研究・産業・地域が連携することで成り立っており、その結果として雇用創出や企業誘致にもつながっている点は注目すべきである。また、工場見学や体験型プログラムなど「見せる産業」として観光資源化されている点も、地域の魅力向上に大きく寄与している。

こうした視察で得た知見を踏まえると、八戸市においても、水産資源や港湾機能といった強みを単なる一次産業にとどめるのではなく、研究機関との連携による高度利用や、加工・ブランド化、さらには観光と結びつけた付加価値の創出が求められると考える。また、外部企業との連携を積極的に進めることで、新たな技術や投資を呼び込み、地域経済の活性化につなげていく視点も重要である。

さらに重要であると感じたのは、「地域全体で戦略を共有している」という点である。久米島では、海洋深層水という資源を核に据え、行政・研究機関・民間企業が同じ方向性のもとで事業を展開しており、それぞれの取組が相乗効果を生み出している。単発的な事業ではなく、中長期的なビジョンのもとで段階的に産業を育てている点は、今後の地域政策を考える上で極めて重要な視点である。

また、視察先では製品そのものの価値だけでなく、その背景にあるストーリーや科学的根拠を丁寧に発信している点も印象的であった。単に「良い商品」を作るだけでなく、「なぜ良いのか」「どのように作られているのか」を消費者に伝えることで、ブランド価値を高めている。このような情報発信の在り方は、八戸市における水産物や加工品のブランド化においても大いに参考になるものである。

エネルギーの観点からも、地域資源を活用した持続可能な取組が進められている点を注目すると、海洋深層水の温度差を活用したエネルギー利用など、自然条件を生かした技術は、環境負荷の低減と産業振興を両立させる可能性を持っている。八戸市においても、港湾や海洋環境を生かした再生可能エネルギーの導入や利活用について、より一層検討を深めていく必要があると感じた。

今回の視察で得られた最大の学びは、地域資源は活用の仕方次第で新たな産

業と価値を生み出すことができるという点である。八戸市においても、既存資源を改めて見つめ直し、科学的根拠と民間活力を融合させながら、持続可能で競争力のある地域づくりを進めていく必要があると強く感じた。今回の学びを今後の政策提言や施策立案にしっかりと反映させ、地域経済のさらなる発展につなげていくことが重要であると考えている。